

北海道および赤れんが庁舎のあゆみ



開拓使札幌本庁舎（明治6年）



赤れんが庁舎（明治22年頃）



八角塔撤去後（明治39年頃）



火災（明治42年）後



復旧工事完成（明治44年）後

赤れんが庁舎の 屋根の色がどう！？



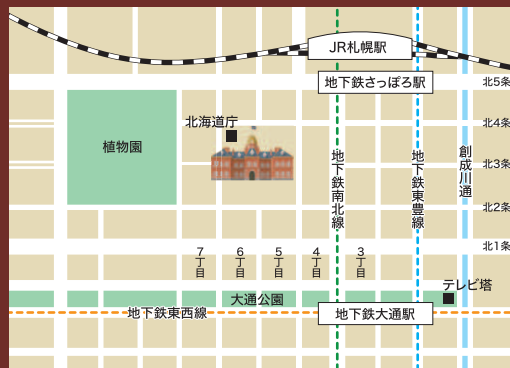
新しい銅板に替えたので
最初は赤褐色です。
時が経つにつれて褐色～
緑青色に変化します。

1659	斉明	4年	阿倍比羅夫、蝦夷遠征、翌年後方羊蹄に郡領を置く。
11205	元久	2年	津軽の安東氏、蝦夷の代官となる。
11514	永正	11年	蠣崎氏（のちの松前氏）、安東氏より蝦夷を預る。
11593	文祿	2年	蠣崎氏、豊臣秀吉より蝦夷の支配者として公認される。
11799	寛政	11年	高田屋嘉兵衛、択捉航路開設。
11800	〃	12年	伊能忠敬、蝦夷地測量。
11808	文化	5年	間宮林蔵、間宮海峡発見。
11845	弘化	2年	松浦武四郎、蝦夷地探検。
11869	明治	2年	松浦武四郎、蝦夷地の名称として「北加伊道」を含む6案を提案。 政府、開拓使を設置、蝦夷地を北海道と改称し、11国86群を設置。 島義勇、札幌を本府として建設に着手。
11870	〃	3年	道内の人口約10万人。
11871	〃	4年	開拓使顧問として米人ケブロンを招く。
11873	〃	6年	開拓使札幌本庁舎完成。
11876	〃	9年	札幌農学校開校、教頭として米人クラークを招く。
11879	〃	12年	開拓使札幌本庁舎焼失。
11880	〃	13年	札幌～手宮（小樽）間に鉄道開通。
11882	〃	15年	開拓使廃止、函館・札幌・根室の三県設置。
11886	〃	19年	三県廃止、北海道庁設置。
11888	〃	21年	赤れんが庁舎完成。
11889	〃	22年	赤れんが庁舎外構完成（池、植樹等）。
11896	〃	29年	赤れんが庁舎八角塔・換気筒撤去。
11901	〃	34年	第1回北海道会開く。
11909	〃	42年	赤れんが庁舎火災。
11911	〃	44年	赤れんが庁舎復旧工事完成。
11920	大正	9年	第1回国勢調査、道内の人口約236万人。
11950	昭和	25年	第1回札幌雪まつり開催。
11967	〃	42年	開拓使札幌本庁舎跡及び赤れんが庁舎が国の史跡指定。
11968	〃	43年	北海道百年記念式典開催。 赤れんが庁舎復元工事完成。
11969	〃	44年	赤れんが庁舎が国の重要文化財に指定。
11972	〃	47年	冬季オリンピック札幌大会開催。 道庁前庭、環境緑地保護地区に指定。
11986	〃	61年	第1回冬季アジア競技大会開催。
11988	〃	63年	青函トンネル開業。
12005	平成	17年	知床が世界自然遺産に登録。
12015	〃	27年	第20回国政調査、道内の人口約538万人。
12016	〃	28年	北海道新幹線 新青森～新函館間開業。
12019	令和	元年	赤れんが庁舎改修工事着工。
12021	〃	3年	北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産に登録。
12025	〃	7年	赤れんが庁舎改修工事完成予定。

写真出典：北海道大学北方資料データベース

令和7年（2025年）7月25日 赤れんが庁舎が生まれ変わります！

赤れんが庁舎は、重要文化財として国の指定を受けた、北海道を代表する歴史的建造物です。国内外から年間約70万人が訪れていた道内有数の観光スポットですが、建物の内部・外部ともに劣化が進んでいたことから、耐震対策を含めた改修にあわせて、館内の展示や活用方法を全面的に見直し、北海道の歴史・文化・観光情報の発信拠点として、より魅力的な施設に生まれ変わります。入館料は、中学生以下が無料となっており、教育旅行の見学地としておすすめです。また、庁舎内の催事スペースや前庭も様々な行事や催しにご利用いただけるようになります。



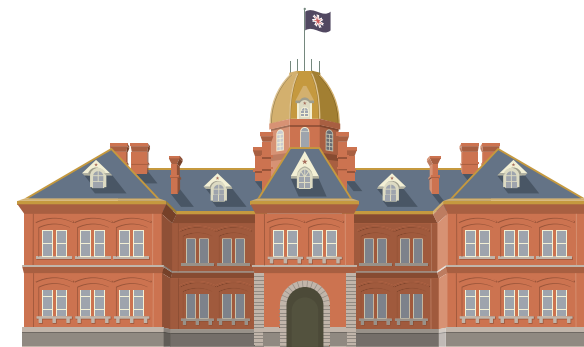
北海道札幌市中央区北3条西6丁目

発行：北海道総務部イノベーション推進局財産課

重要文化財 赤れんが庁舎

2025年7月25日

リニューアル オープン



赤れんが庁舎 2025年7月25日 リニューアルオープン

赤れんが庁舎リニューアル後の館内イメージ

2F

歴史と文化のフロア



重要文化財としての赤れんが庁舎の価値、アイヌ文化や北海道通史、道内各地の遺産（世界遺産・日本遺産・北海道遺産）の展示や道立美術館・博物館の紹介を通して、北海道独自の歴史や文化、自然の素晴らしさを発見・認識していただくフロアです。また、歴史を感じながら眺望も楽しめる催事スペースは、様々な行事や催しにご利用いただけます。

1F

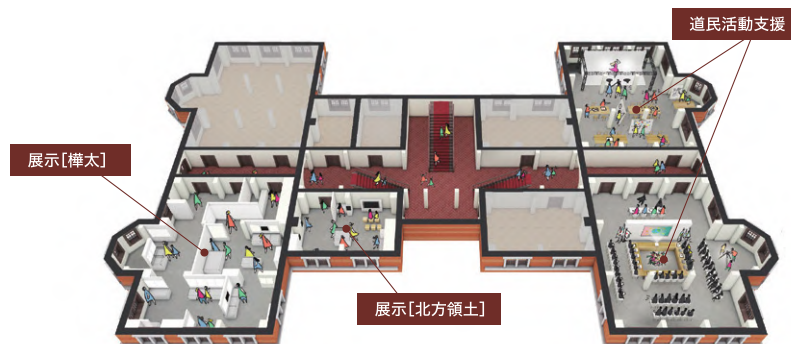
地域情報とにぎわいのフロア



道内179市町村の個性と魅力を国内外に発信します。特産品や絶景スポット、旬の情報の紹介や、四季折々の雄大な自然景観を体感できる映像を上映し、赤れんが庁舎から道内各地へと誘います。各地の名産品やお土産を購入できるショップや、地域の食文化を楽しめる飲食スペースもあり、北海道を実感できるフロアです。

B1F

学びと継承のフロア



世代や地域を越えて道民が交流、連携し、北海道の未来を共に創っていくフロアです。道民活動支援スペースは、創作活動の発表、市民団体の会合、セミナーやワークショップなど、さまざまな交流や活動にご利用いただけます。また、樺太や北方領土に関する資料の展示室も設置します。